

intloop ×  **TECH STOCK**

知らないと損をする 生体認証(バイオメトリクス)の 導入メリット

働き方改革や緊急事態宣言によるリモートワーク等、情報が外に持ち出される機会が増加しております。改めて情報セキュリティについて考えてみてはいかがでしょうか？

生体認証を導入することで、約40%の情報漏えいを抑えることができます。

本稿は、生体認証(バイOMETRICS)の特徴、メリット、導入事例についてご紹介させていただきます。更に工数削減にも繋がる事例をご紹介します。

質問

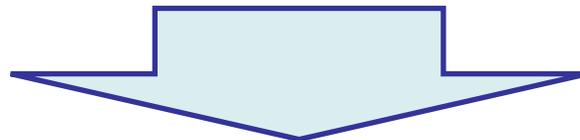
業務をする中で、以下の内容に心当たりございませんか？

【セキュリティ】

- パスワードを使い回している
- 入退出時に使うIDカードの紛失や盗難が怖い
- リモートワーク中のセキュリティが心配

【工数】

- IDカードや新規発行の管理に工数がかかる



上記心当たりがある方は、生体認証の導入を検討してみてもいかがでしょうか？

目次

1. ECサイト構築ポイント
 2. ECサイト構築方法比較
 3. ECサイト構築手順
 4. プラットフォーム別構築事例
- 

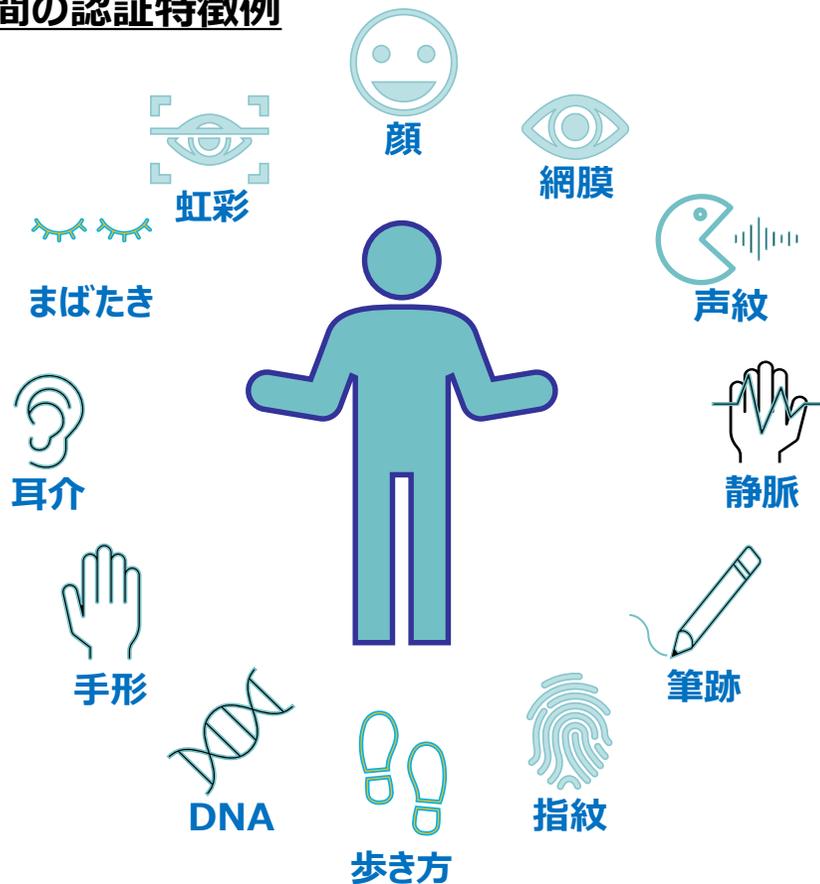
目次

- 1. 生体認証（バイオメトリクス）とは？**
2. 生体認証の導入メリット
3. 生体認証の導入事例
4. まとめ（生体認証とコロナウイルス）

1. 生体認証(バイOMETRICS)とは？

生体認証(バイOMETRICS)とは、人間の特徴を活用した**個人認証システム**です。身体的特徴(生体器官)や行動的特徴(癖)を活用し、認証します。

人間の認証特徴例



2つの人間の特徴 (身体的特徴/行動的特徴)

■ 代表的な身体的特徴

- 指紋
- 顔
- 虹彩
- 静脈
- 声紋

■ 代表的な行動的特徴

- 歩き方
- まばたき
- 筆跡

誰もが持っており、本人のみの特徴を「鍵」にすることによりセキュリティ強化が見込まれます。

1. 生体認証(バイOMETRICS)とは？ : 主要生体技術

代表的な生体認証技術の特徴をご紹介します。

	認証精度	費用	普及率	認証方法
指紋	○	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 指紋の特徴の照合やパターンで識別 接触認証型
顔	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 顔の形、目鼻などの位置関係を示す特徴で識別 非接触認証型
虹彩	◎	△	△	<ul style="list-style-type: none"> 目の虹彩パターンを抽出して認証 非接触認証型
静脈	◎	△	△	<ul style="list-style-type: none"> 静脈パターンや特徴の照合で認証 接触、非接触認証型
声紋	△	◎	△	<ul style="list-style-type: none"> 口、のど、鼻などの発声器官から出る音の特徴で識別 非接触認証型

アピールポイント

普及率が高く、費用が安い

非接触で普及率が増加傾向

高い認証精度かつ非接触

高い認証精度かつ複製困難

非接触かつ費用が安い

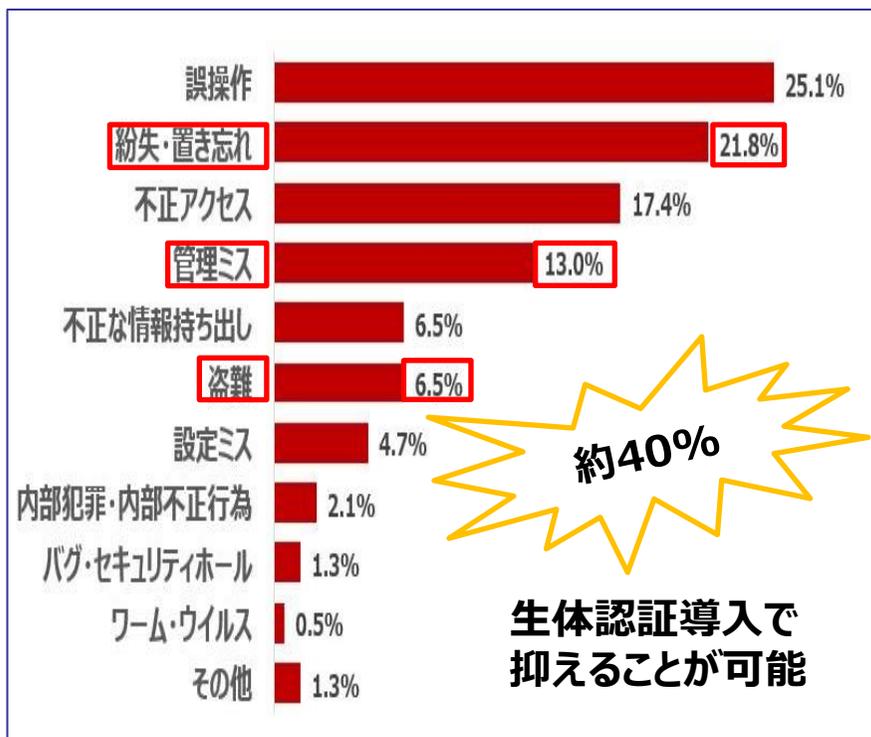
目次

1. 生体認証(バイオメトリクス)とは？
- 2. 生体認証の導入メリット**
3. 生体認証の導入事例
4. まとめ(生体認証とコロナウイルス)

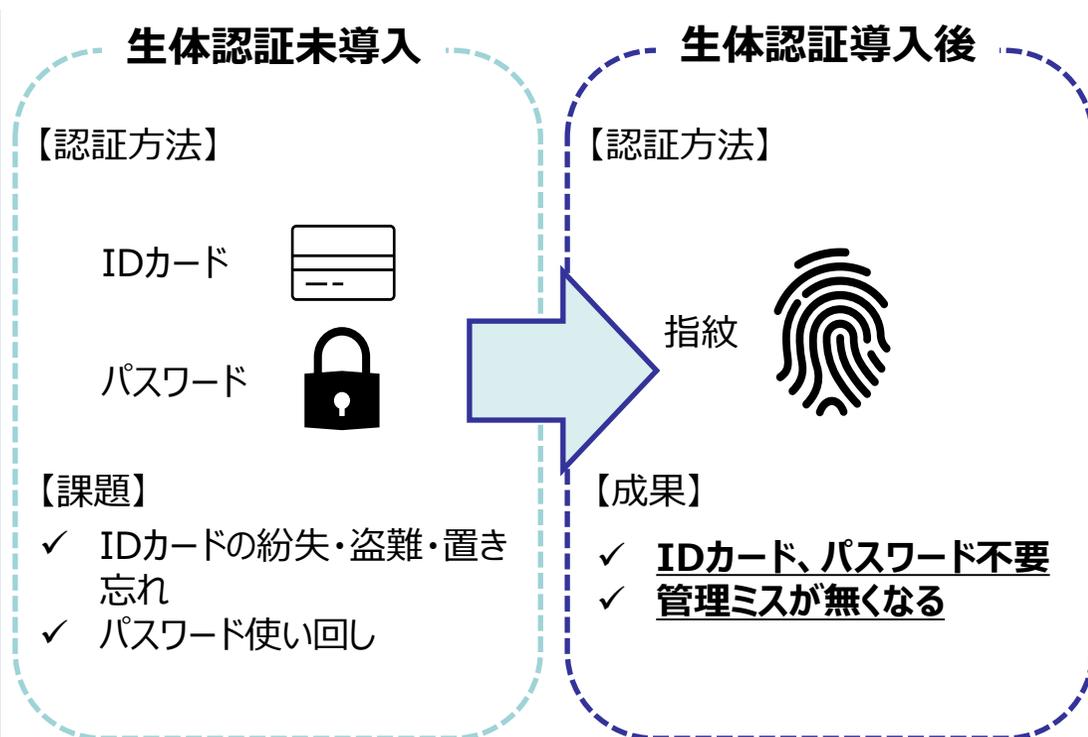
2. 生体認証の導入メリット：セキュリティ強化

生体認証を導入することで、約40%の情報漏えいを抑えることが可能となります。

漏えい原因比率



生体認証導入イメージ



出典元：2017年情報セキュリティインシデントに関する調査報告書

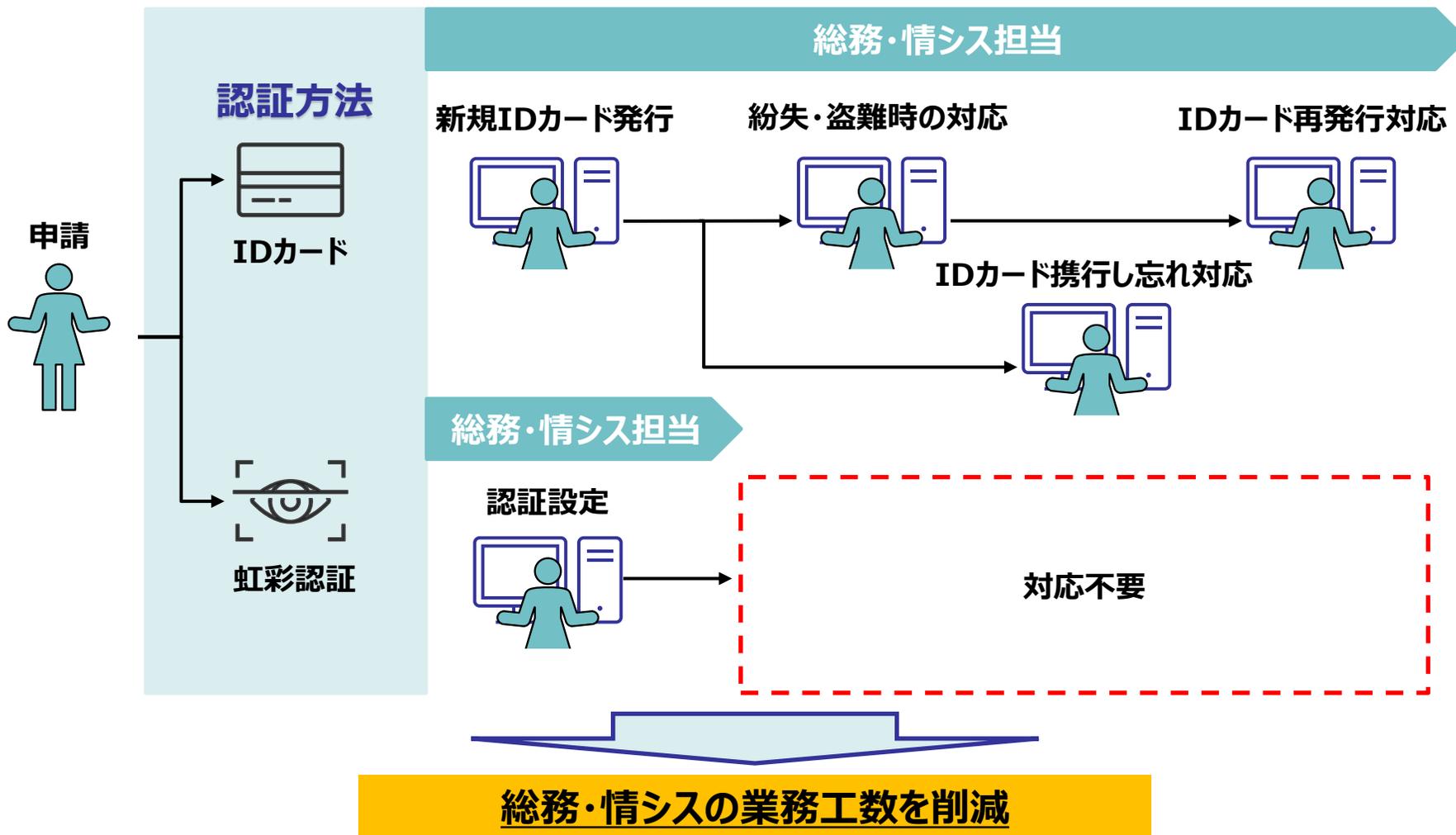
URL) https://www.jnsa.org/result/incident/data/2017incident_survey_sokuhou_ver1.1.pdf

情報漏えい(損害賠償、対応費用、機会損失、法的制裁、会社の信用低下)を防ぐことが可能

2. 生体認証の導入メリット：業務工数削減

生体認証を導入することにより、業務工数を削減することができます。ここでは総務・情シスの業務工数削減例をご紹介します。

【認証申請例】

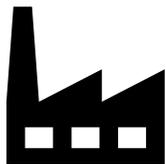


2.生体認証の導入メリット：業種別

業界固有の課題に対し、成果を上げている事例を紹介します。

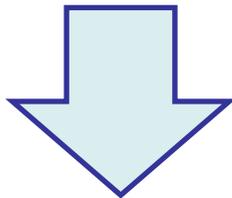
業種

製造工場



課題

IDカードの巻き込み事故問題



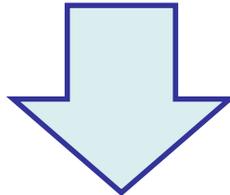
成果

顔認証を採用し、IDカード廃止により事故防止

飲食店



POSレジの物理キーを廃止したい

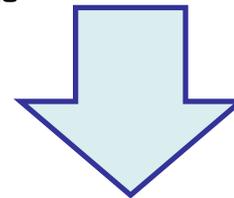


POSレジに指紋認証を採用し物理キー廃止

医療



紙カルテ→電子カルテへ移行の際にセキュリティが心配

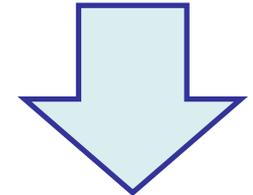


指紋認証によるセキュリティ強化と電子カルテのスピーディな運用を実現

中小企業



低コストでの打刻操作の簡易化が困難



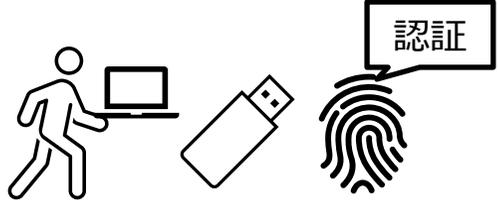
顔認証を導入し、打刻操作の簡易性、正確な勤務記録を実現

目次

1. 生体認証(バイオメトリクス)とは？
2. 生体認証の導入メリット
- 3. 生体認証の導入事例**
4. まとめ(生体認証とコロナウイルス)

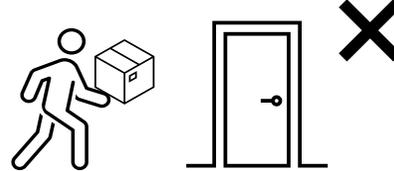
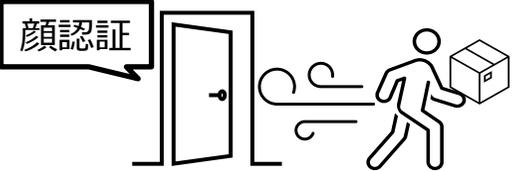
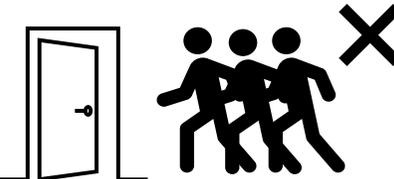
3.生体認証の導入事例：指紋認証

普及率が高く、費用が安い指紋認証は、幅広い業界に活用されています。

活用生体	業界	課題	成果
指紋認証 	官公庁 	定期的なパスワード更新の対応漏れが多発 	生体認証導入により、パスワードの定期的な更新が不要 
	映像機器レンタル会社 	持ち出しPCのセキュリティ担保 	持ち出し可能な小型の指紋認証装置を導入 
	ソフトウェア開発会社 	IDカードのインシデントが多発 	生体認証導入後、IDカード不要 

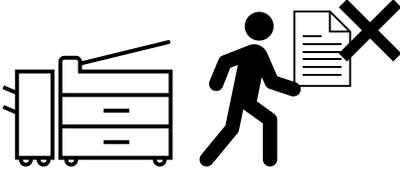
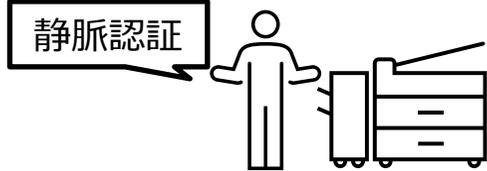
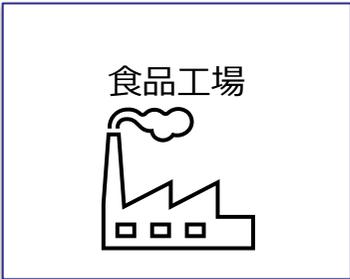
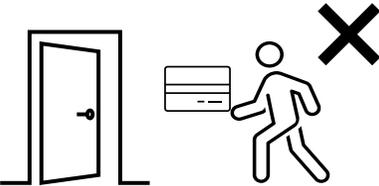
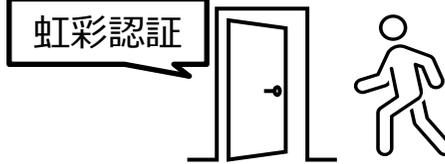
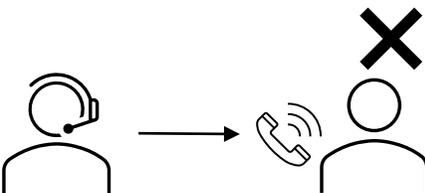
3.生体認証の導入事例：顔認証

非接触でスムーズな入退出、セキュリティ強化が期待できる顔認証の事例をご紹介します。

活用生体	業界	課題	成果
顔認証 	物流 	両手が塞がっている状態での入退出が困難 	両手が塞がっている状態での入退出が可能 
	教育現場 	塾生以外の不法侵入が多発 	登録されていない人物が侵入した場合、アラートが鳴る 
	フィナンシャルグループ 	テレワーク中に登録者以外の覗き見が発生 	登録者以外がPCを覗き見した場合、画面をロック 

3.生体認証の導入事例：静脈、虹彩、声紋認証

静脈、虹彩認証と声紋認証の導入事例をご紹介します。

活用生体	業界	課題	成果
 <p>静脈</p>	 <p>電機メーカー</p>	PC出力から印刷物を取りに行く間に盗難、紛失が発生 	PC出力後、静脈認証での印刷にすることで盗難、紛失を防止 
 <p>虹彩</p>	 <p>食品工場</p>	着替えやIDカード持ち込みによる異物混入リスクを防ぎたい 	IDカード不要&手袋やマスク着用での入退出が可能となり、異物混入リスクを削減 
 <p>声紋</p>	 <p>コールセンター</p>	電話対応での本人確認作業の工数を軽減したい 	事前に登録したユーザであれば、声紋により本人確認が可能となり、作業工数が削減 

目次

1. 生体認証(バイオメトリクス)とは？
2. 生体認証の導入メリット
3. 生体認証の導入事例
4. **まとめ(生体認証とコロナウイルス)**

4.まとめ(生体認証とコロナウイルス)

日本では東京オリンピック・パラリンピック大会において、会場入場時の本人確認に顔認証システムを活用することが確定されおります。海外では、無人コンビニに生体認証を活用されたりと、今後も期待されている技術です。

本稿で、生体認証技術をご紹介させていただいた理由がございます。

それは、日本だけでなく世界を脅かしている新型肺炎コロナウイルスの対策に効果があると考えています。

感染拡大を防ぐため、リモートワークを導入した企業様は増えております。そこで、生体認証を導入することにより、セキュリティ強化や勤怠管理などの工数削減を実現することができます。更に、非接触型の認証システムは、他者との接触による感染リスクを抑えることができます。

情報セキュリティだけでなく、従業員の安全や働き方改革をご検討される際に、選択肢の一つとして、生体認証技術の導入をおすすめします。

INTLOOPについて

さまざまな経営課題の解決を支援するコンサルティング事業を主軸に、テクノロジーを駆使しビジネスモデルの変革を目指すデジタルトランスフォーメーション事業、システムの開発・導入を支援するテクノロジーソリューション事業、専門性の高い人材をご紹介する人材ソリューション事業の4事業を柱に事業を展開。

常にお客様の視点に立つことを第一義に考え、お客様の課題に対して最適なソリューションを提供し続けています。

お問合せ

下記フォームよりお問合せください。

<https://www.intloop.com/contact/general/>

記載の企業ロゴデザインについて

記載している企業のロゴ、商標は企業が提示しているガイドラインを確認したうえで記載しています。デザイン、商標についての著作権は、それぞれの企業に帰属しています。

免責事項

この文書に記載されている情報は一般的なものであり、特定の個人や組織に対するアドバイスを提供するものではありません。掲載情報の正確さについてできる限りの努力をしていますが、その正確性や適切性を保証するものではありません。何らかの行動をとられる場合は、本資料の情報のみを根拠とせず、専門家による適切な分析・アドバイスをもとにご判断ください。当資料を用いて行う一切の行為、被った損害・損失に対しては当社は一切の責任を負いかねます。予めご了承ください。当資料の著作権は当社にあります。当資料の転載、流用、転売など、ダウンロードされたご本人様以外のご利用は固くお断りさせていただきます。